

世界に羽ばたけ！ 米山学友③

お年寄りの輝く笑顔を生きがい



「幸福創造」の職員とともに高齢者に笑顔を届ける

「おいしい。このスープでもっと長生きできるかな」  
 熱い参鶏湯（<sup>サムゲタン</sup>韓国の代表的なスープ料理）を一口飲んだ老人から笑みがこぼれました。米山学友の金玄勲さんが韓国で設立、理事長を務める社会福祉法人「幸福創造」の恒例行事・参鶏湯パーティーでの一コマです。

日本を上回る速さで高齢化が進む韓国。全人口のうち、65歳以上が占める割合は2005年時点で9.4%。2050年には35%強にまで急増すると予測されています。

高齢者の自殺も社会問題となっています。昨年5月の『朝鮮日報』によると、過去10年間で60歳以上の自殺率は倍増し、特に一人暮らしの高齢者の自殺率が高い、と警鐘を鳴らしています。「幸福創造」では、こうした孤独な毎日を過ごす老人や、認知症・障害のある高齢者に、さまざまな支援を行っています。

“幸福”とは無縁の生い立ち

金さんの幼少時代は、“幸福”とはおよそ無縁のものでした。2歳のときに父親が他界し、いったんは祖父のもとへ引き取られたものの、小学4年生から高校卒業までの多感な時期を児童養護施設で過ごしました。「家庭的な温かさなどなく、まるで軍隊のような序列社会で、殴る蹴るの暴行は日常茶飯事でした」と金さん。いつも空腹で、身を守るために神経をとがらせ、そして何よりも、愛情に飢えていました。

「こんなに辛い思いをするのは自分だけでいい」。金さ

んは牧師になる夢をもち、懸命に勉強しました。しかし、大学に合格したものの、学費を用意できず、夢は頓挫。その後、働きながらも勉学への意欲を捨てきれずにいた彼は、「日本なら学生でもアルバイトで学費を稼げる」と知人から誘われ、留学を決意しました。

福祉の勉強をしたい。来日後、金さんの胸に新たな目標が芽生えました。真夏の工事現場など、過酷な条件のアルバイトをこなしながら勉強を続け、社会福祉の総合大学である日本社会事業大学に合格。優秀な成績で卒業式では総代に選ばれ、修士課程へ進みます。しかし、授業レベルが上がるにつれ、アルバイトとの両立も難しく、福祉に生きるという決意に迷いが生じました。ちょうどそのころ、米山記念奨学生となった金さんは、当時を振り返って「周囲のロータリアンが自分の人生を支えてくれました。いろいろな人から“夢を実現させて母国のために貢献してほしい”と声をかけてもらい、吹っ切れました。皆さんが奉仕活動をする姿を見て、自分も今の道をもっとしっかり歩いていこう。そう思えたのです」と言います。

韓国で福祉の道へ

帰国後、小さなアパートの一室を借りて、身寄りのない貧しい高齢者の共同生活施設「老人の家」の運営を始めました。翌年には、「幸福創造」の前身となるNPO団体「博愛在宅老人福祉園」を創設し、リハビリやレクリエーションを行う通所介護サービス、惣菜無料宅配



よねやまだより

世界で最も早く高齢化社会に移行する、と言われる韓国。近年、高齢者の自殺も社会問題となっています。幼少時代を児童養護施設で過ごした米山学友、金玄勲さんは、人々に幸福を届けたいと、高齢者福祉の道を歩み始めました。今は「福祉の仕事は天職」と言い切る金さんですが、この道に至るまでにさまざまな苦しみもありました。

サービス、ヘルパー派遣事業など的高齢者福祉事業を次々と展開。高齢者だけではなく、配偶者からの暴力に苦しむ女性や、恵まれない子どもの支援も始めました。このほか、介護士養成学校の運営、福祉関係者の日韓交流事業も行い、2006年には社会福祉法人「幸福創造」として、新たなスタートを切りました。

特に、子どもへかける情熱は強く、日本に国際本部をもつ「Kids' AU (子どもたちのアジア連合)」の韓国代表を務め、北東アジア6か国の児童を集めたキャンプを毎年実施し、アジアの未来を担う子どもたちの友情のネットワークづくりにも尽力しています。

### 誰かの胸に感動を刻みたい

これほど多岐にわたる事業を展開しながらも、“幸福創造”の名に込めた「人々に幸せを届けたい」という心を忘れず、施設では高齢者が孤独を感じやすい年末や誕生日にパーティーを開くなど真心を込めたサービスに気を配り、利用者に喜ばれています。

息をつく暇もないほどの毎日。しかし、笑みを絶やさぬ穏やかな人柄は、周囲の多くの人から慕われています。現在、「幸福創造」では初めて土地を購入し、小さな老人療養センターを建設していますが、厳しい経営のなか、足りない費用の手助けをしようと、職員たちが給料の中から寄付をしてくれていることも、彼の人柄を証明する一つと言えるでしょう。

### プロフィール

キム ヒョンファン  
金 玄勲 さん



(1996 - 97年 / 大宮南西RC)  
1964年生まれ。韓国ソウル市在住。社会福祉法人「幸福創造」理事長をはじめ、韓国明知専門大学非常勤講師、ソウル市在宅老人福祉協会会長、Kids'AU韓国代表、韓国社会福祉学会日韓学術交流委員など肩書多数。

金さんは言います。

「社会福祉の仕事は、決して華やかでも表立ったものでもありませんが、お年寄り一人ひとりの生きる姿を通して人生を学び、支援してくださった人々の心は、人生をどのように生きるべきかという大きな教訓を私に与えてくれました。世の中のどんな輝くものよりさらに輝かしいものは、隣人に対する温かな心ではないかと思えます。自分が何かを受けることよりも、誰かの胸に感動を刻むことのできる生き方ができればと思います」

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見は、(財)ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

TEL: 03-3434-8681 FAX: 03-3578-8281

Eメール: mail@rotary-yoneyama.or.jp

### ロータリー精神を受け継ぐ学友 —— アメリカから2年間で2,000ドルの寄付 ——



昨年10月、アメリカ・ボストンの製薬会社に勤める米山学友の張<sup>チョウイウワン</sup>安さん(中国 / 1998 - 2000 / 近畿大学大学院 / 交野RC)から世話クラブを通じ、奨学会に2度目の1,000ドルが送られました。そこには「渡米して8年、知らず知らず、人間のありきたりな欲求に従って働いていました。手に入れた幸せはつかの間で、いつも不安や悲しみに襲われてきました。しかし今、私は充実感と幸せを感じています。それは、周囲のすべての人に対し、奉仕の気持ちを意識することで得られています。『Service above Self (超我の奉仕)』、これは私にとって単なる言葉ではなく、精神そのものであり、幸せの源泉です」と、添えられていました。奨学生レポートに「卒業後の進路を

張さんが2度目の寄付 ロータリーの理想につなげたい」と書いた張さん。彼は今、アメリカの地で、それを実践しています。